

サステナビリティハイライト

土木・建築現場のイノベーション

交通施設から文化財まで、社会インフラを支える使命

有史以来、土木・建築は欠くことのできないインフラとして人類の進化と共に歩んできました。より効率的で、便利に。社会からの高まる期待に応えるべく、安藤ハザマは技術革新を続けています。同時に、文化財の維持・再生は、貴重な歴史的遺産を守り、後世に託すという、重要な使命を帯びています。安全性や環境性に優れ、地域と調和したサステナブルなインフラが求められる現在、イノベーションの重要性は高まり続けています。

CASE 01

SUSTAINABILITY HIGHLIGHT



名古屋城本丸御殿復元工事

名古屋城の本丸御殿は10年におよぶ復元工事を終え、2018年6月より一般公開が始まりました。近世城郭御殿の最高峰と言われ、実測図や写真などの史料を基に在りし日の姿を忠実に再現。国宝にも指定された優美な姿が見事に蘇りました。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



SDGsとの関わりと可能性

レジリエントで高品質な社会インフラを実現し続けるため、技術の開発と伝承の仕組みづくりに挑んでいます。それは、社会への価値創造力を向上することにとどまらず、国連SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の理念に通じる重要な経営課題であると、安藤ハザマは考えています。このような観点に立ち、CSR重要テーマ「社会やお客様の満足と信頼獲得」に関わるSDGsとして目標9を見据え、日々、挑戦を続けています。

快適で心豊かな社会を

過去の技術を検証・復元する

名古屋城本丸御殿は、近世屈指の城郭御殿であり、天守閣と共に国宝に指定されていましたが、1945年に戦災で焼失しました。安藤ハザマは2009年の着工より復元に従事してきました。文化財の保全や復元の際、大きな課題となるのが、往時の工法の検証と、その再現さらには現代技術との融合です。その実現に、伝統施設に関する安藤ハザマの豊富な施工実績が力を発揮しました。同御殿を象徴する意匠を凝らした内装の数々には、古写真や実測図など膨大な史料の検証を基に、旧来の材料・工法を用いる「旧状再現」での復元工事を実施しました。匠の技により忠実に往時の佇まいを再現しています。



復元された本丸御殿



職人の多くは地元より採用

歴史を守り、未来を拓く、 安藤ハザマのものづくり

より良い明日を支える先進的な交通網の構築から、大切な文化財の保全・復元まで、安藤ハザマのものづくりの挑戦は、社会のさまざまな場所で今日も続いています。



さまざまな事例を知りたい方へ 安藤ハザマの現場レポート「ゲンバる」
<http://www.ad-hzm.co.jp/genbaru/index.html>

最先端の技術を開発・投入する

日本では、道路網の整備が急速に進んでいますが、その施工には、環境性や効率性、安全性が高い水準で求められます。この実現に向け、IoT技術や情報処理技術を積極的に活用しています。例えば、高速横浜環状北西線のシールドトンネル建設工事では、長距離かつ大深度、大断面の施工を確実に実施するため、シールドマシンの稼働をネットワーク経由で集中管理・遠隔操作できる統合型管理システム「HI-SDACS (ハイスダックス)」を導入しました。地盤の情報やシールドマシンの現在位置、施工情報などをコンピュータ上でリアルタイム表示する「スマートシールド®」システムを併せて運用しています。



最先端の技術を盛り込んだシールドマシン

イノベーションで支える